平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	ＪＡあしがら
１２１ ※記入不要	住　　所： 担当部署：営農経済部　　担当者名　：倉橋 電話番号：0465-83-5150　　ＦＡＸ番号：	

要望問題　キヌヒカリの胴割、祭り晴の収穫時期対応について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

現在、消費者は味のよいもの、希望しているが、ここ数年天候不順により胴割が多く、味の低下につながっており、消費が伸びていません。
つきましては、対応策について検討願いたい。
また、祭り晴については、足柄地域では収穫時期がキヌヒカリと比較するとかなり差があり、栽培管理が問題となっている（新品種---９月下旬～１０月上旬）収穫できるものを検討願いたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生物資源部
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）
新品種系統適応性検定試験
（１）奨励品種決定基本調査・普及事業(S29～)
ア　奨励品種決定調査事業(S29～)

対応の内容等

水稲奨励品種の選定については上記研究課題により、実施中です。
本年度は、昨年までの結果で有望と認めれた中生品種の「関東209号」について、施肥反応試験も実施し、栽培法について調査しています。また、県内６カ所で現地試験を行い、県内各地の地域適応性を検討しています。貴管内においても開成町で試験を実施してますので、現地における評価につきましては、御協力をお願いいたします。
平成１５年度に実施しました胴割米多発要因調査によると、胴割米は成熟期が過ぎ、遅刈りしたものほど多発しており、適期（９０％の籾が黄色になった時期）に収穫したものには軽微でした。したがいまして胴割米防止には、適期収穫が有効です。農総研では適期収穫が行い易いように、成熟期の予測および成熟期の判別法について検討します。また、籾の急激乾燥と胴割米発生の関係など、胴割米の発生に関する試験結果等を収集し、提供します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	